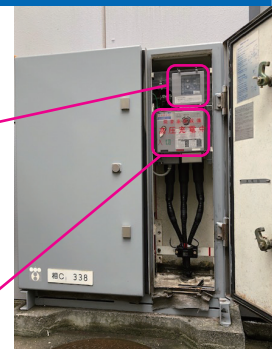
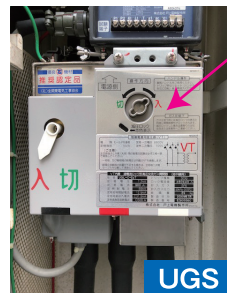


更新推奨年 15年

UGS・UASの重要性とは

高圧受電の事業場で電気事故が起きた場合、お客さまの事業場だけでなく、周辺一帯を停電させてしまうことがあります。

こうした波及事故を防ぐのが、異常を感知して配電線との接続を自動で遮断するUGS・UAS(地中線用過電流ロック形高圧交流負荷開閉器)です。しかし、これらを設置していても経年劣化により機能が損なわれてしまえば、波及事故につながりかねません。そのため、UGS・UASの定期的な設備更新を推奨しています。



UGS・UASは更新推奨年が15年です

定期的な更新で事故を防止

以前は、電柱を使用した架空引き込み線によって電力会社から電気が供給されていましたが、道路に電柱があることで車や歩行者の通行の妨げになるため、現在は電柱や電線をなくし景観をよくする地中化が都市部を中心に進められています。地中引き込みは架空引き込みに比べ、波及事故を起こした際の停電被害が大きくなることが予想されます。

SOG(過電流ロック形地絡継電器)の誤動作、動作不良、UGS・UAS 本体の老朽化による不本意な波及事故を防止することは事業場を守ることに繋がります。UGS・UASの更新推奨年は 15年(日本電機工業会での推奨時期)となっています。また、更新推奨年を過ぎた高圧ケーブルが設置されている場合は、UGS・UASの交換と一緒に高圧ケーブルの交換も推奨します。



22年経過し故障した SOG



波及事故防止の重要性

他の事業場が原因で波及事故が起きれば、お客さまの事業場も停電になり仕事ができなくなります。波及事故では発生者が損害を受けるだけでなく、周辺の被害者側から損害賠償を請求されるケースもあります。ご近所に多大な迷惑をかけるうえ、実際に被害があった事業場から「操業停止費用」など損害賠償請求があり、複数件から請求されることもあります。このようなトラブルを回避するためにも波及事故防止の対策が必要です。